資料９

「子ども・若者の権利の観点」からの評価・検証について

子ども・若者ワイワイプラン令和7年度取組実績に対する、子ども・若者の声を聞く取組（ワイワイトーク及び若者会議）を実施した上で、次年度に向けて確認・議論が必要な点を整理した。

１　評価・検証するテーマ（施策・事業）について

(1) 専門部会が評価するテーマ

子ども・若者ワイワイプランの重点的な取組①～⑦全てを専門部会が毎年評価することになっているが、ひとつずつ丁寧に評価するには数が多くなっているため、
テーマを絞ることも検討する必要がある。

(2) 子ども・若者の声を聞くテーマ

重点的な取組に記載されている施策・事業をそのまま使用して設定しているが、今年度実際に、子ども・若者に評価してもらった際に、テーマ（子ども・若者に何を考えてもらいたいのか）を子ども・若者に理解してもらうことが難しく、またテーマに紐づく事業が多いため、事業内容の理解も難しい様子であった。

テーマに紐づく事業を示して評価してもらうのではなく、子ども・若者がわかりやすい広いテーマ設定して、子ども・若者の意見を聞く必要がある。

２　子ども・若者の声を聞く方法について

(1) 実施方法

今年度は仕組みの検討のために、ワークショップ・アンケート（出張アンケート含む）・保育園見学と、複数の方法を実施したが、毎年複数の方法を一度に実施するのではなく、年度ごとに方法を選択していく必要がある。

(2) 特定の対象に意見を聞く方法

特別なニーズを抱える子どもにターゲットを絞って意見を聞く場合、対象者が限られた数である場合が多く、対象者の意見をアンケートのみで抽出すると個人特定やレッテル貼りにつながる可能性があるため、考慮が必要である。

(3) 対象年代

ワイワイトークの実施にあたり、小学生～高校生までの年代で理解度が異なるため、高校生が当事者意識を持ち参加することが難しい状況になっていると考える。

高校生が若者と重複する年齢であるため、ワイワイトークは中学生までとし、高校生は若者の声を聞くというところで整理してもよいのではないかと考える。ただし、若者会議の中で、子どもとしての高校生だけの意見も拾える工夫をしていく必要がある。

３　庁内の事業自己評価シート

専門部会において、評価・検証するにあたり、どのような内容をどの程度まで記載されていると良いか、今一度整理する必要がある。

また、現在は事業評価と「子ども・若者の権利の観点」からの評価が同じシートで記載されているが、記載の分け方も改善する必要がある。

４　組織について

子ども・若者施策推進本部及び専門部会（庁内会議体）との連携と評価組織の独立性が両立できるような仕組みを検討する必要がある。